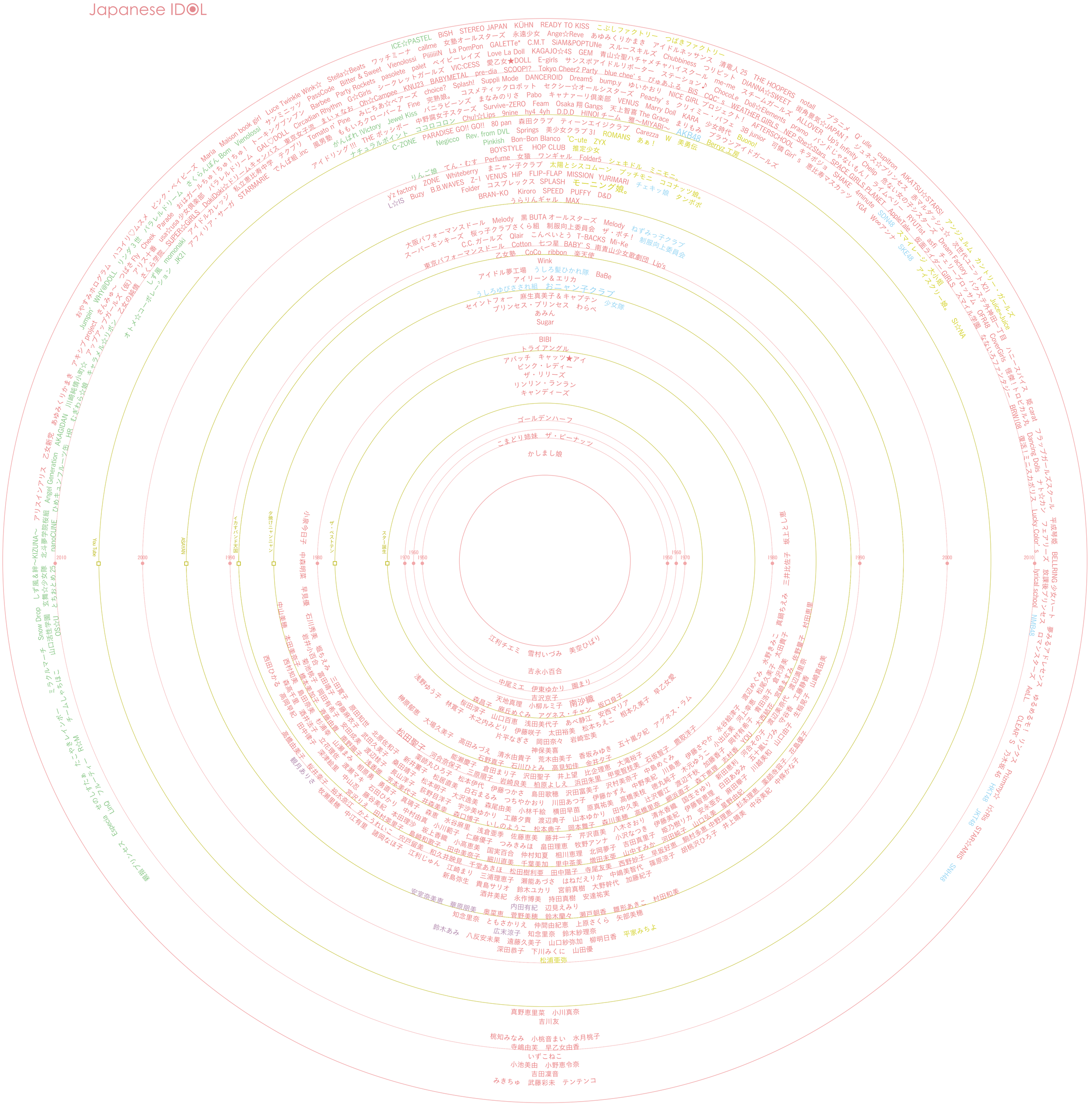
Japanese IDOL



日本とアイドルたちの歩み

”アイドル”という存在は 1971 年の南沙織のデビューから始まる。（それ以前の歌手、女優などは活動を映画作品をメインにした”青春スター”として呼ばれていた。）デビュー曲「17 才」と沖縄出身の彼女のあどけなさ、その容姿が”アイドル”というものを日本中に認知させるものとなり、次いで翌年の公開オーディション番組「スター誕生!!」からは、山口百恵を代表格にした花の中三トリオなどがデビュー。日本のアイドルの時代はここからスタートを切った。

アイドルの定義とはなんだろうか。あらゆるメディアに出演し、歌や演技などを披露することは勿論だが、その明確なルールは無く、時代と共に変わりつつある。70 年代に南沙織が今までの青春スター達と違い、”アイドル”として確立した理由の一つは”不完全さ”であった。これは芸能界において完璧すぎる存在ではなく、どこか欠けた状態、少しだけ劣っているという状態で、これにより多くのファンを取り込んだ。彼女をメディア越しに見る第三者は、そのどこか劣っている彼女に対し、近寄りやすさや、守ってあげたい、という欲求が引き起こされ、またそれは”支配したい”という気持ちにすらさせるものであった。

アイドルが生まれ、発展するきっかけの中には、このような人間の心理を絶妙に突く様子が南沙織のデビューと共に展開されたのである。

70 年代から 80 年代前半にかけてこのスタイルはアイドルのプロトタイプとして成熟され、その最中に現れたのが後にアイドルの王道と呼ばれる松田聖子である。この時代は、この成熟されたスタイルを貫き深める松田聖子と、またそれと差別化を図る花の 82 年組である中森明菜や、小泉今日子らの活躍がアイドル業界での熱を高め、そして 80 年代後半に入り、秋元康によって総勢 10 名以上のアイドルグループ、おニャン子クラブが誕生した。そしてこれまでのアイドルの歴史は、様々な多様性もある中で、初期の”不完全さ”を軸に持ち成長をしてきたが、90年代に入り、ある一つの転換期を迎える。　アイドル冬の時代の到来だ。これまでの戦後経済発展の不安を埋めたアイドルたちは、バブル期により一時的な豊かさを手に入れた日本人には必要とされなくなったのである。その後バブルが崩壊し、再び不安に煽られた世間に現れたのが、現在では 15 年以上ものキャリアを持つモーニング娘。だ。彼女達はそれまでの不完全さとは少し違った”カッコよさ”を取り入れ、実力の中で勝ち上がる現代のアイドル像を形成した。再度活気をとりもどしたアイドル業界では 2005 年の AKB48 の誕生から現在にかけ、アイドル戦国時代と謳われるほどまでのグループ数とジャンルの多様性を持つ大規模な物へと進化したのである。